



寿崎智一さん  
西門復元工事現場棟梁

### 1300年前どうやって工事したのか想像がつきません

文化財の復元工事は中世の山城が多いため山の上での仕事は慣れていますが、ここは別格。山の高さやすばらしい眺望には驚かされました。一年のうち京都の工場で部材の加工に1/3、あとの2/3は日本全国の現場に行きますが、やはり京都や奈良の出張が多いです。こんな太い柱を扱うのは初めてですし、柱のうろこ状の表面加工（チョウナ仕上げ）をするチョウナ、壁板の縦じま状の表面加工をする槍ガンナなどの工具を使うこと自体がまれです。私自身も今回で2度目となります。1300年前には、車もクレーンも近代工具もなかった。どこからこんな大きな材料を調達して、どうやってここまで運び、どのようにして加工したのか、工事期間や人手などどれくらいかかったのかなど想像がつきません。そして、丹精こめて復元した西門の威容を見てロマンを感じて欲しいです。

鬼城山は、吉備高原の南端に位置し山頂が広くなだらかで周囲は険しい斜面。鬼ノ城からの眺めは、総社平野はもちろん、児島半島のさらに遠くの小豆島や四国山脈も遠望できる。かつて吉備穴海と称された現在の児島湖は、内陸深く入った入江であり、水島灘には島々が見え、広く海路が見渡せた。古代の総社平野は吉備の中心として栄え、政治、経済、文化、交通の要衝の地。その背後に鬼ノ城が築かれた。

かつて大和政権が、天智2年（663年）朝鮮半島の白村江の海戦で大敗。唐・新羅連合軍の日本侵攻を恐れ、西日本の要所に、大野城（福岡県）をはじめとする朝鮮式山城を築城したことが「日本書紀」に記されている。一方、「日本書紀」などには記載がなく、朝鮮式山城と同種の遺跡と考えられている神籠石式山城が16城あり、鬼ノ城もその一つだ。

城の構造は、鬼城山の8合目から9合目にかけて、高さ6m、全長2.8kmに及ぶ城壁が一周する。その構造は石垣を築いた石塁が全体の1割、土を幾層にも突き固めた版築土塁が9割を占める。出入り口となる城門が東西南北に計4つ、雨水を排出する水門



9合目にかけて、高さ6m、全長2.8kmに及ぶ城壁が一周する。その構造は石垣を築いた石塁が全体の1割、土を幾層にも突き固めた版築土塁が9割を占める。出入り口となる城門が東西南北に計4つ、雨水を排出する水門

### ここに吉備文化があったことを伝える必要があります

ここ鬼ノ城は、全国の神籠石式山城の中でも門が4か所確実に分かった珍しい例で、調査も整備も進んでいる所の一つです。古代の文化財が大事だといっても、なぜ大事なのか一般の人に分かりにくいと思います。山のふもとを走っている車からでも見れば、あれは何だということになりますし、1300年前の古代にこういうものが作られていたということが一目で分かります。西門や角楼、ガイダンス施設の完成で初めて訪れる人にもイメージがわきやすくなったのではないのでしょうか。やはり、ここに吉備の文化があったんだということを、こういうものを作ってでも伝えていかなければなりません。整備はここで一つの区切りがつけましたが、まだまだロマンは多いですね。兵舎がどこにあるかさえわかっていませんし、今明らかなのは外郭と倉庫だけです。



坪井清足さん  
鬼城山整備委員会委員長  
(元興寺文化財研究所長)

# 蘇る鬼の居城・鬼ノ城

温羅は岩を積み 砦を造り 城を築いた  
この城から眼下に栄える吉備の国を  
見守っていたのだろうか  
1300年前の威容が今蘇える

西門 復元された西門の威容

角楼 城壁から凸字形に張り出し、正面と側面から攻撃できる。

北門 鬼ノ城の背面に築かれた堅い守りの北門。

突出部 (屏風折れの石垣) 城外側に鋭く張り出した突出部は、全て石垣で築かれている。

高石垣 石垣は総社平野側に六カ所築かれている。

判明している城壁線  
未確定の城壁線

北門  
西門  
高石垣  
城内側の敷石  
第二水門  
第三水門  
東門  
突出部  
休養舎  
観音工頭跡

城内側の敷石 城壁の城内側に並べられ、鬼ノ城ではかなりの範囲に認められる。

第二水門 排水機能をもつ水門は、高度な築城技術をうかがわせる。

第三水門 第三水門は、城壁のようすが良く残されている。

突出部 自然の巨岩を取り込み石垣を築いている。